



H 2 1 年 9 月 3 0 日

さくしん

下氷鉋小学校

(校長室だより 17)

校長 大内 徹

キンモクセイの甘い香りが漂うこの頃であります、皆様にはご健勝のことと存じます。

19日の114回の運動会には大勢の皆様にお越し頂き誠にありがとうございました。インフルエンザの流行が心配され、運動会までの練習や、開催自体が危ぶまれましたが、予定通りでき本当によかったです。万国旗がはためく青空の下、元気にゴールを目指して駆けていく子どもの表情は素晴らしいものでした。学年の発表では、2年生が「エイサー」、4年生が「よさこいソーラン」、5年生が「霧の川中島」、6年生が「下氷鉋の花（組体操）」をそれぞれ演じてくれました。どれも子ども達の息があって見応えのあるものでした。動きの始まり・終わりの整然とした「静」の部分と躍動する「動」の部分のメリハリも感じられました。とりわけ、6年生の組体操は大変美しく、本部席で私の傍でご覧になられていた来賓の方々も異口同音に感動の言を唱えていらっしゃいました。組体操の形や動きの美しさや素晴らしさも心を打つのですが、下で一生懸命堪えながら支えている子ども達の表情や互いを信じながら支え合っている姿がよけい感動となって伝わってきたのだろーと思いました。「体」の組み方や支える力だけでなく、「心」の組み方や支え合う力がいかに大切かを物語るような組体操でありました。6年生の皆さんもきっとそのことを学んでくれたに違いありません。組体操の難度が高くなるにつれて、「だいじょうぶかな・・・?」「あと少しだからこらえて!」というような眼差しで固唾を呑みながら見守る会場全体が静まりかえっていることに気づきました。これは私にとってもうれしい驚きでありましたし、感動を共有し一体感を味わえる下氷鉋小学校のすばらしさを再確認する場となりました。

さて、先日の清掃時に北門からロータリー周辺の草取りをしながら、たまった草を片付けようと立ち上がろうとすると、5年生のH君が「その草、持っていきましようか」と声をかけてくれました。私が、「ああ、おねがいできるかな? ありがとう」と言うと、片付けかけの草入れ（ちり取り）に入れて、持っていつてくれたのでした。それだけのことなのですが、「さて、草入れはどこかなあ」と私が思った矢先の、タイミングのよいH君の言葉でしたので、小さな感動を覚えたのです。掃除が終わってからも私は先ほどの彼の行為の意味を考えていました。すごいことだぞ。私が何をしていた、次にどうしたいのかという状況が目に入っていないとできない行為でもあるし、その時間の「きれいにしたい」という願いがあるからこそ、自発的な行為となって現れたのだろーなあと思いました。指示がないと動けない若者が多いと言われる今日この頃であります、その場の状況をさっと汲み取り、場にあった言動がとれる子どもを育てていきたいものだとな改めて考えました。本校の学校目標として

「主体的に行動する子どもの育成」

一、自分からすすんでやる子 二、友達と力をあわせてやる子 三、最後までやりぬく子

が掲げられております。この事例は具体目標の一、にあてはまるものであります。本校が願い、具現をめざす子どもの姿をむずかしくとらえずに、ちょっとした子どものよい姿や言動をとらえながら、認め励まし、よさからよさへと伸ばし発展させていくことができれば幸いです。注意して見ていると、何気ない子どもの言動に、素晴らしい芽が発見できるのではないのでしょうか。案

外、小さなよさを見逃していて、認めて伸ばしてあげるチャンスを逃しているのかもしれません。

嬉しいことがまだありました。先月のさくしん（16）の中でも触れさせていただきました本校の学校花壇がフラワーボラボーコンクールで北信管内でベスト3に選ばれ、中央審査に推薦いただきました。校章をデザインした学校花壇は霜が降りるまでは咲き続け、私たちの目を和ませてくれることと思います。これも、緑化委員会の皆さんのおかげです。今日の掃除でも、6年生の男子が枯れかかったマリーゴールドの花を摘んでおりました。日々のちょっとした世話によって美しく維持されている学校花壇であり、その花壇に子ども達の心が映し出されているような気がします。

花壇の脇のロータリー内では、井戸の掘削工事も終了して、吸い上げポンプも備え付けられました。20ほどパイプを掘り下げたようです。ドングリ山に向かう水路の工事も進行しております。先日、ホタルの郷再生事業実行委員の江尻耕導さんが飯山の川で採集してきた川蝸(カワニナ)をガラス瓶に入れて持って来て下さいました。川蝸放流に向けての貴重な一歩かと思いましたが、それに触発されて私も休みを利用して豊栄方面の小川に入って川蝸を採集してきました。近くの小川に入って遊んだ小学生の頃の思い出が蘇ってきました。石の裏にへばり付いているものもあれば、よく見ると川底に転がっているものもありました。水路が完成すれば、皮蝸を採集し放流する段階に入っていきます。休み等に親子のふれあいの場として、近隣の水辺を訪れて水遊びを兼ねて川蝸を採集してみたいはいかがでしょうか。

明日からは十月。秋もしだいに深まっていきます。秋と言えば、食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋・・・と何をやるにも快適で条件のよい時期です。私ごとで恐縮ですが、先週のシルバークロークには、実家の戸隠柵の山に入って栗を拾ってきました。虫食いもありましたが、なんとか栗ご飯にすることができました。また、スポーツの秋というわけではございませんが、メタボ予防のために、7月からずっと続けてきている夜の4kmほどのウォーキングも定着してきました。そのお陰でしょうか、ひと頃の足腰の気だるさから解放されました。人間というものは、日々何を心がけどのように過ごしているか、毎日の積み重ねが現在の自分に大きく関わってくるのだなあ実感しております。ウォークマン風に英語を聞きながらのウォーキングですが、体と「英語耳」も鍛えられてきているような感覚も味わっております。私が人生の杖言葉の一つとしているものに、「一日一刻小さな一生」という言葉がございますが、一日一日、一刻一刻の重みや意味を噛みしめながら、ひたすら歩いていると、その日の出来事や自分自身の言動を振り返ることができます。同じ道を歩いていても、目にする街並みが違って見えてくるから不思議です。

夜や休日等、いわゆるオフの時間にくつろぎ気分で家にいて、一旦テレビにスイッチを入れて番組を次から次へと見させられてしまうことがあります。食べ物にせよ、読書、インターネット等で、視覚や聴覚を通して私たちの脳や心の中に入ってくる情報にせよ、私たちの中に入ってくるものには心や体の成長にとって有益なものもあれば、阻害要因となるものもあります。何を取り入れるかは、私たちの判断と責任に任されています。成長期にある子どもを支える大人の責任として、よりよいものを取り込もうとする習慣や判断力を子どもに身につけさせることができれば幸いです。

10月23（金）には音楽会があります。昨年度の反省から今年度は保護者席をギャラリーの後部にも設けての音楽会になります。子ども達がステージに集中できるか否かは音楽会の成否につながる点でもあります。不用意にお子様方の注意を逸らさせないようにご配慮いただきたくお願い申し上げます。

